

アメリカ・インディアン諸語 (世界の女性語)

著者	八杉 佳穂
雑誌名	日本語学
巻	12
号	6
ページ	20-23
発行年	1993-05-20
URL	http://hdl.handle.net/10502/5816

アメリカ・インディアン諸語

八杉佳穂

言語や語族の認定や話者の数などは、簡単そうでありながら、言語学者をたえず悩ませる難しい問題であるが、概観をつかむためにあえて無理をしていうと、アメリカ大陸には、2000万以上の人により、700を越す言語が話されているとみることができよう。このうち女性語に関しては、コアサティ (Koasati) 語がもっとも有名である。アメリカ合衆国のルイジアナ州の南西部で話されているコアサティ語では、動詞の活用形の一部に男女の違いが見出される。以下に数列挙げるが、簡略化して言うと、男性語は、女性語の語尾を-sに変える。しかし最近では男女の区別がなくなっているという。

男	女
lakawtakkós	lakawtakkø
「私は持ち上げていない」	
lkawwá・s	lakawwə・
「彼は持ち上げるだろう」	
ká・s	kə・
「彼は言っている」	
lakawwís	lakawwil
「私は持ち上げている」	
lakawhoós	lakawhol
「持ち上げなさい」	

これに対し、カリフォルニア州北部のヤナ (Yana) 語や中米のベリースからニカラグアの大西洋岸で話されているガリ

フナ (Garfuna) 語では、男女の区別がもっと顕著にみられる。

ヤナ語ではほとんどの語に男女の区別がある。男性語は男性に対してだけ用いられるにすぎないが、女性語は女性ばかりでなく、男性が女性に話す場合にも用いられる。一般に男性語のほうが女性語より長い形をとる。

「火」	'au-na (男性語)	'au' (女性語)
「人」	yā-na	yā'
「それ」	aidje'e	aidje
「あれ」	aiye'e	aiye
「彼はするであろう」	t'usi'i	t'usi
「彼は殺される」	ap'djisiwa'a	ap'djisiwa
しかし多音節の名詞の場合と短母音で終わる動詞の多くは、女性語の場合、最後の母音やその前の子音が無声気息化する。		
「男」	'isi	'isj
「鳥」	gāgi	gak'j
「食べる」		

mô'i mô'j
 このほか行動を表す動詞に男女により異なる語が用いられることがある。

「行く」

ni-/nī-

「踊る」

bu-ri-/bu-rī

dja-ri-/dja-rī

また正常でないことを表す動詞の多くは女性語の場合 -yai- がついて区別される。

「目がみえない」

lulami-'a-

lulmai-yai-'a-

ガリフナ語は、ブラックカリブ語といわれることもあるが、言語的にはカリブ語族ではなく、アラワク語族に属する。男性語と女性語の区別があるが、男性語と女性語の発達の起源は、コロンブス以前の時代にあったカリブ (Carib) 族によるアラワク (Arawak) 族の征服にあるという。征服者のカリブ族は最初カリブ語を話していたが、征服されたアラワク族の女性は、アラワク語を話し続けた。子供たちは最初母親からアラワク語を学び、成長して父親からカリブ語を学んだ。そこで接辞や動詞形など、アラワク語の文法体系が基礎になり、単語がカリブ語に置き換わったといわれているが、確かなことは不明である。

しかし17世紀には、ガリフナ語の基礎語彙の50%に男女の区別があったのに、現在では100語中わずか4語しかないという。言い換えれば、女性語の90%が残っているのに対し、男性語は10%しか残っていない。女性語のほうが優勢となり、たとえば男性語の áu 「私」、amoro 「君」はすたれ、男性も、女性語の nugúya 「私」、bugúya 「あなた」を使

っている。

男性語

女性語

「私」 áu

nugúya

「君」 amoro

bugúya

「女」 wori

hiánru

「男」 wogori

eyéri

人称標識は三人称単数で、男性と女性の区別があり、それは名詞の性と呼応するが、名詞の性の扱いには特徴的なものがある。すなわち抽象物は、女性話者の場合男性で、男性話者の場合は女性として取り扱われる。しかし具体物は、話者による違いはない。たとえば、hátí 「月」は、話者が男であろうと女であろうと男性として扱われるが、それが月日の「月」となると、抽象名詞となるので、男性話者の場合は女性として、女性話者の場合は男性として扱われる。

性のあるものはその性に従うが、性がないものは、どちらかに分類される。女性扱いを受ける名詞には、容器類、家、乗物、衣服、ベッド、ハンモック、箱、壺、鍋、銃刀類、卵、木、栽培植物、星、性が不明な鳥や魚、這う昆虫、蛇、亀などの動物などがあり、一方、針などの尖った道具、身体名称の大部分、飛ぶ昆虫、野性植物、月、太陽、具体物のほとんどは男性の扱いを受ける。例外的な名詞を挙げるとつぎのようになる。

bunfídi 「帽子」は男性、借用語彙の aréba 「キャサバパン」 bínu 「ラム酒」は男性、fej 「パン」、diwéj 「ワイン」は女性。

女性扱いされる身体名称：「腹」「腸」「心臓」「肝臓」「肺」「鼻」「喉」「舌」「血管」「子宮」。しかし「ペニス」は女性、「ワギナ」は男性扱い。

男性扱いにされる栽培植物：「唐辛子」「パイナップル」「米」「とうもろこし」

その他の言語で男女の区別をするという報告は、アメリカ南西部のプエブロ・インディアンなどいくつかにみられる。人称代名詞（接辞）や親族名称における区別だけの場合が多いが、メキシコのオアハカ州のミシュテク（Mixtec）語のコアツォスパン（Coatzospan）方言では、発音における男女の違いが報告されている。e, i のまえで男は t, d で発音するのに対し、女は口蓋化した t̥, j で発音する。

	男	女
「犬」	tĩŋa!	çĩŋa!
「水」	dũʔtè	dũʔçè
「小さい」	!!úʔdi	!!úʔji
「黒い」	dèe	jèe

これに対してアコマ（Acoma）語やラグナ・ケレサン（Laguna Keresan）語では、母音の長さによる。

	男	女
「痛い！」	'áyáa'á	'áya'á

（アコマ語）

「熱い（触って）」	idîi'i	idî'i
-----------	--------	-------

（ラグナ・ケレサン語）

「冷たい」	iyúu'u	iyú'u
「怖い」	imíi'i	imí'i

プエブロ・インディアンでは、いくつかの語（特に感情表現や応答語）に男女差がみられる。

男	女
「ありがとう」	
kʷakʷaha (-y)	ʔaskʷali
Hopi (Third Mesa) <言語 (方言)>	
kunda	kuna

Tewa (Arizona)

hawə · hærkəm

Tiwa (Sandia)

「美しい」

lóloma sónwayo

Hopi (Third Mesa)

ʔanʷiicʔe anʷumeecʔa

Keresan (acoma)

sagiʔwoʔ ʔasagi

Tewa (Arizona)

「はい（返事）」

hoy h̥ə ·

Tewa (Arizona)

h̥aman hoy

Tewa (Rio Grande)

「大きい」

hósqaya yá:sayoqu

Hopi (Third Mesa)

「開いた」

hōei hínʔör

Hopi (Third Mesa)

「良い」

-ʔóyyó -ʔáyyá

Tewa (Arizona)

「ごちそうさま」

naita h́úw'éhé

Keresan (Acoma)

「なに？（呼ばれて）」

háí h́ée

Keresan (Acoma)

「痛い！」

ʔaná · -q ʔi · sana

Hopi (Third Mesa)

女性語に関する報告は、以上みた程度であり、アメリカ大陸では言語による男女の区別は、ごく限られた言語に現れる特殊な現象とっていいのではなからう

か。

参照文献

- Haas, Mary R. 1944 Men's and Women's Speech in Koasati. *Language* 20 : 142-149.
- Hadel, Richard E. 1979 Reflections on Garifuna Language and Society. *Actes du XLII^e Congrès International des Américanistes*, Vol. 6 : 475-485, Paris.
- Kimball, Geoffrey 1990 A Further Note on Koasati "Men's" Speech. *International Journal of American Linguistics* 55 : 158-161.
- Kroskirty, Paul V. 1983 On Male and Female Speech in the Pueblo Southwest. *International Journal of American Linguistics* 49 : 88-91.
- Pike, Eunice V. and Priscilla Small 1974 Downstepping Terrace Tone in Coatzospan Mixtec. In R. M. Brend (ed.), *Advances in Tagmemics*, Amsterdam : North-Holland Publishing, pp. 105-134.
- Saville-Troike, Muriel 1988 A Note on Men's and Women's Speech in Koasati. *International Journal of American Linguistics* 54 : 241-242.
- Sims, Christine P. 1990 More on Male and Female Speech in (Acoma and Laguna) Keresan. *International journal of American Linguistics* 55 : 162-166.
- Sapir, Edward 1929 Male and Female Forms of speech in Yana. In St. W. J. Teeuwen(ed.), *Donum Natalicium Schrijnen*, Nijmegen-Utrecht : Dekker and Van de Vegt, pp.79-85. (Reprinted in *The Collected Works of Edward Sapir*, edited by William Bright, Mouton de Gruyter 1990. pp. 335-341)
- Taylor, Douglas 1951 Sex Gender in Central American Carib. *International Journal of American Linguistics* 17 : 102-104.
- 1961 Some Particular Problems in the application of the 100-Item Lexicostatistic Test List. *International Journal of American Linguistics* Vol. 27 : 30-41.
- 1977 *Languages of the West Indies*. John Hopkins University Press.

